序

身延山短期大学学長
望月日滋

里見泰穏学頭の古稀を記念して論集が刊行される事は、寔に同慶の至りであります。

先生は、昭和八年立正大学宗教科を卒業され、更に研究科へ進み、同十五年同科を修了するや、直ちに祖山学院助教授に就き、身延山専門学校・身延山短期大学と名称は変りましたが、今日迄、高等学校をも含めた身延山学園の教壇上一筋の道を歩まれています。この間、昭和二十七年には高等学校校長を、また同五十一年には短期大学学頭となり、今日に至っています。

先生は、印度学仏教学会（理事）・仏教学会に所属し、一貫して宗教学、或いは仏教学における哲学的考察を進めている事は、その著書・論文により周知の事ですが、最近では「七面信仰の系譜と展開」「日蓮宗と俗信仰との交渉」など、宗門人にも馴染み深い問題を取り上げています。

宗内にては、日蓮教学審議会委員、普通試験講習委員長、各種講習会等の講師として活躍し、他方、山梨県私学振興会理事、同私学審議委員、同私学退職金財団理事と、身延山学園を代表して山梨県教育会に活動されている事は、余り知られてない事と思われます。

先生は、教育一筋に情熱を注がれ、難解な学問を温厚な態度で授業し、薫陶を受けた者は今日迄多数に上りますがこれは宗門が認めるのみでなく、昨年五月教育功労者として文部大臣表彰を受賞した事が顕然と示しています。

学頭として本学の発展に尽力され、又、山梨県の教育界に重きをなして来られた先生の古稀を記念して特集が組まれるに当り、御健勝にて更に研鑽を積まれ、我々を教導されん事を願い、慶賀の微意を表するものです。

（昭和55・11・23述）